

みんなの環境

第 49 号 2022 年 2 月 10 日

編集/発行 あつぎ環境市民の会
<http://atsugikankyo.g3.xrea.com/>

2022 年度 さがみ自然フォーラム

バーチャル・リアリティ(VR)で開催

あつぎ環境市民の会 代表 *井上 允

生物の生息環境の悪化と生態系の破壊に対する懸念、温室効果ガスによる地球温暖化への危機感が 1990 年代に生物多様性条約と気候変動枠組条約という形で広がりを見せ、県内においては丹沢大山のブナ枯れが問題で 1999 年から丹沢大山保全計画が始まりました。

こうした状況に荻野自然観察会会長花上友彦氏、厚木植物会会長諏訪哲夫氏の呼びかけで「野生動植物保全フォーラム」が 2002 年 8 月に発足、のちに「さがみ自然フォーラム」へと名称を変更しますが、あつぎ環境市民の会もお誘いを受けて会発足の 2004 年から参加、運営スタッフの一員として現在に至っています。

このフォーラムは、厚木市と NPO 法人神奈川県自然保護協会の共催で実施しておりますが、昨年は新型コロナウイルスの影響で開催を中止、本年こそはと 2 月 10 日から 14 日までの開催にむけて準備してきましたがコロナの蔓延が収まらず再び展示は中止になりました。

そこでインターネット上で仮想現実 (VR) 技術を使った展示会を行うことを検討し、PC やタブレット、スマートフォンでも会場にいるような状態で見ることができる新しい展示方式へ変更になりました。

予定している参加団体は、公的団体が 8、市民団体・企業・個人が 24、幼稚園・小学校・高等学校・大学が 14、合わせて 46 団体です。公開は 2 月 12 日から 5 月 15 日までで、VR の出来上がりに不安もありますが、デジタル世代にはこの機会に特に自然保護活動への関心を寄せてほしいと願っています。

さて、あつぎ環境市民の会は一昨年からはプラスチック問題を取りあげ、講演会や情報交換を行っており、昨年 12 月 15 日には厚木市環境事業課の協力を得て、愛川町で稼働する廃プラスチックマテリアルリサイクル工場を見学することができました。プラスチックといっても様々な成分が使われているために、リサイクルを行うにも素材の選別が重要で、従業員の方々が目視や音で素材を的確に判断し選別する技も見せていただきました。今号では 2 人の会員が見学報告を寄稿しておりますのでご覧いただければ幸いです。

視聴期間：2022 年 2 月 12 日(土)～5 月 15 日(日)

URL: <http://sagami-forum.3d-vr.jp>

または厚木市 HP から で検索



* (いのうえ まこと) 厚木市上荻野在住

バケツやハンガーなど再度プラスチックの材料に

リサイクル施設を見学

事務局 *鷺谷雅敏

現代はプラスチックの時代。身の回りのありとあらゆるところにプラスチックが溢れています。今やプラスチック産業は人間社会にとって欠かせないものになっています。



手作業で分別し CD/DVD を個別に粉碎

安価で軽く形も自由自在。腐ることもなく衛生的で便利な材料ですが、普及は戦後のことのように、私が子供の 1950 年から 60 年頃のごみは食品残渣が主で包装として使った新聞紙やきょうぎ（経木）などが混ざっていました。これが東京オリンピックあたりを契機としてプラスチックを使った流通革命が進行していきます。

これまでのリターナル使用からプラスチック容器によるワンウェイ革命が普及していきました。

今や、燃やすとダイオキシンの発生が懸念され、

使い終わっても分解されず海プラスチックスープに変身させる厄介ものになっています。プラスチックを使わない「プラスチックフリー」の社会にすることが一番の対策ですが、これだけ生活に入り込んだものを直ぐに無くすことは難しいのも現実です。



再生プラスチック材料として完成

あつぎ環境市民の会は、このプラスチック問題を考えていこうと、昨年度は「海の環境問題～気候変動とプラスチック汚染」と題しての講演会を行ってきました。

今回、厚木市の協力を得て、市内の一部の地域で分別収集を始めたバケツやハンガーなどの製品プラスチックについてのリサイクル工程を会員 14 人が参加して見学をしました。訪問先は愛川町にある都市環境サービス(株)。廃プラスチックのマテリアルリサイクル施設で収集されたプラスチックを材料別に再分類して再度プラスチックの材料にリサイクルする施設です。プラスチック汚染問題を解決するには、使い捨てプラスチックの生産を根本から減らすことが必要で、今こそ使い捨てに頼った社会から、プラスチックごみの出ない

社会へのシステムチェンジが求められています。



参加したみなさん

* (さぎたに まさとし) 厚木市森の里在住

一番の驚き、人手をかけて丁寧に分別

リサイクル原料の品質配慮

*今若朋美

私が住む森の里地区は市内モデル地区として、2021年11月から製品プラの回収が始まっています。回収された後どのように処分されているのか関心があり、この度、廃プラスチックのマテリアルリサイクル施設見学会に参加させていただきました。

今回の見学では、単に燃やすサーマルリサイクルではなく、細かく分別してマテリアルリサイクルされている様子を実際に見ることができました。こんなに人手をかけて丁寧に分別しているとは！というのが一番の驚きでした。

これを機械化すると、完全に混ざっていない物しかりサイクル原料と判断されず、再資源化の割合が低くなってしまいます。‘人手がかかる＝地域に雇用も生まれている’ということで、一概に機械化が良いとは言えないのだな、と思いました。

また、市の回収では一般的に燃えるゴミにされている古いCDなどは、厚木市が市6カ所で回収している光学ディスクの回収箱に入れると、CD、DVDそれぞれ破碎されてリサイクルの原料になり、CDケース、付属の紙も全て分別されてリサイクルされていることも知りました。（例えばCDケースは修正テープなど文房具のケース部分になるそうです。）

そして、スーパーで売っている発泡スチロールのトレーとラップ。同じプラスチックとして洗って一緒に回収に出してしまいそうですが、素材は別だそうで、混ぜてしまうとリサイクル原料としての品質が落ちるそうです。

私たち消費者の一つ一つ考えて捨てる（回収に出す）行動が、リサイクルに関わる方たちの手間を省き、資源の再利用化を促し、未来の地球環境につながるのだということを常に頭に置いて生活していこうと改めて思いました。

*（いまわか ともみ）あつぎ環境市民の会 厚木市森の里在住



たけうま

小川の土橋を渡るのは、難しい。大きいみんなは渡れるが、わたしはまだムリだ。



画：櫻井進六

（さくらい しんろく）

あつぎ環境市民の会

厚木市七沢在住

あつぎ市民発電所 だより

ソーラーシェアリング1号機では順調に発電と農業生産が継続しています。2年間の発電量は約6万6千kWh、CO₂削減効果は27.5トンを達成しました。今年1月には設備の自主点検としてパネル表面の目視確認を行いました。今後はドローンによる調査も検討したく、東京工芸大学の内田孝幸教授のご協力で試験飛行を行いました。

農業生産でもサトイモやラッカセイはパネルで影ができて、むしろ収穫が多いという結果も得られており、遮光率と各作物収穫の関係の調査を続けていきます。神奈川工科大学に調査の相談を進めています。昨年秋の収穫祭には神奈川工科大学 SDGs HUB の学生さんたちもたくさん見学と作業に参加して頂きました。「農援隊」として農作業をサポートしていただく市民の皆さんも増えてきており、毎月楽しく農作業をしながら交流を深めています。地域の大学とも協力しながら再エネ普及や気候危機回避への活動を広げていきたいと考えています。

○ 「フクシマから地球へ・未来アクションあつぎ」

5月15日(日) 午後「フクシマから地球へ・未来アクションあつぎ」というイベントを企画しています。若者たちが脱原発や気候危機回避について語り、世代をこえて交流する催しです。

会場：厚木市文化会館 集会室

問い合わせ先：あつぎ市民発電所理事長 遠藤睦子 080-1010-4759

E-mail: mutsuko-endou@ayu.ne.jp

農援隊については 同副理事長・農園主 落合清春 080-5091-8844 へ

○ お知らせ

➤ 福島原発事故10年 ～わたしたちは何処に向かうのか？～

企画展示と講演会&座談会、映画

日時) 2022年3月4日～7日 10:00～17:00

会場) オルタナティブ生活館 横浜市港北区新横浜2-8-4



ドローン撮影

(東京工芸大学 内田孝幸教授 提供)



2021年収穫祭

みんなの環境 第49号 2022年2月10日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上 允 / 制作 長岡 恂

<http://atsugikankyo.g3.xrea.com/>

事務局 〒243-0122 厚木市森の里3-4-3 鷺谷雅敏方

e-mail: pxa05613@nifty.com ケイタイ: 090-7243-9254

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 1000円)

(C) あつぎ環境市民の会 2022